

## 講義要項(シラバス)

科目名	介護の基本 I		授業方法	講義・演習	
担当教員名	渡辺 愛		必修・選択	必修	単位数 8単位
学科	介護福祉科	学年・時期	1年 通年		回数 60回
担当教員の 実務経験	介護福祉士として5年以上、介護現場で利用者支援、家族支援、チームケア、記録業務などに従事してきた。現場で培った尊厳の保持や自立支援、倫理的判断、多職種協働の視点を授業に活かし、学生が実践に結びつく「介護の基本」を理解できるよう指導する。				
授業の目的及びねらい					
介護福祉士として必要となる理念・倫理・役割・機能・自立支援の基礎を体系的に学び、利用者の尊厳を支える介護実践の基盤を形成する。中央法規テキストの章構成に沿って、介護福祉士の専門性、法的根拠、倫理的判断、ICF、自立支援の視点を身につける。					
授業終了時の到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士の理念(尊厳・自立支援・利用者主体)を理解する</li> <li>・介護福祉士の役割・機能・法的根拠を理解する</li> <li>・職業倫理・倫理的判断・権利擁護の視点を身につける</li> <li>・ICFの考え方を理解し、自立支援の視点を持つ</li> <li>・介護予防・リハビリテーションとの関連を理解する</li> </ul>					
回数	各回のテーマ・内容				授業以外の事前準備 学習内容
1	介護の成り立ち(第1節) ねらい:介護の歴史的背景を理解し、現代の介護の基礎をつかむ。 内容:介護の語源、家族介護の歴史、社会的介護への移行。 学習活動:家族介護の経験やイメージを共有するミニディスカッション。				適宜、指示します。
2	介護を取り巻く社会的背景①(第1節) ねらい:高齢化の現状と社会構造の変化を理解する。 内容:高齢化率、単身高齢者、老老介護、地域の変化。 学習活動:厚労省統計を読み取り、気づきをまとめる。				適宜、指示します。
3	介護を取り巻く社会的背景②(第1節) ねらい:社会保障制度と介護の関係を理解する。 内容:社会保障制度、地域包括ケアの基礎。 学習活動:地域の介護課題をグループで整理。				適宜、指示します。
4	介護サービスの変遷(第1節) ねらい:介護サービスの発展過程を理解する。 内容:家族介護→社会的介護、サービスの種類。 学習活動:介護サービスの分類ワーク。				適宜、指示します。
5	演習1-1:介護サービスと家族介護のバランス ねらい:家族介護の負担と社会資源の必要性を理解する。 内容:事例を通じた家族介護の課題分析。 学習活動:事例検討・意見交換。				適宜、指示します。
6	老人福祉法制定までの政策(第2節) ねらい:戦後の福祉政策の流れを理解する。 内容:措置制度、福祉三法。 学習活動:年表作成。				適宜、指示します。
7	1970年代:量的拡充(第2節) ねらい:施設整備の背景を理解する。 内容:特養・老健の整備。 学習活動:量的拡充のメリット・課題を整理。				適宜、指示します。
8	1980年代:質的向上(第2節) ねらい:ケアの質向上の流れを理解する。 内容:専門職の必要性、ケアの質の概念。 学習活動:質向上の事例分析。				適宜、指示します。

9	1990年代:介護概念の整理(第2節) ねらい:ノーマライゼーション・QOLの理解。 内容:介護概念の整理。 学習活動:QOLの視点で事例を評価。	適宜、指示します。
10	2000年以降:介護保険制度(第2節) ねらい:介護保険制度の基本構造を理解する。 内容:保険者、要介護認定、サービス体系。 学習活動:サービス分類ワーク。	適宜、指示します。
11	演習1-2:今後対応が必要な介護問題 ねらい:現代の介護課題を多角的に考える。 内容:認知症、独居、地域包括ケア。 学習活動:グループ討議。	適宜、指示します。
12	介護福祉士の理念とは(第3節) ねらい:理念の全体像を理解する。 内容:尊厳・自立支援・利用者主体。 学習活動:理念キーワードの整理。	適宜、指示します。
13	尊厳を支える介護(第3節) ねらい:尊厳の意味と支援方法を理解する。 内容:尊厳を損なう支援例。 学習活動:尊厳を守る支援の例を挙げる。	適宜、指示します。
14	自立を支える介護(第3節) ねらい:自立支援の視点を理解する。 内容:できることを奪わない支援。 学習活動:自立支援の事例分析。	適宜、指示します。
15	利用者主体と自己決定(第3節) ねらい:意思決定支援の重要性を理解する。 内容:選択肢の提示、意思決定プロセス。 学習活動:自己決定を妨げる要因の検討。	適宜、指示します。
16	演習1-3:尊厳を支える介護 ねらい:尊厳を守る支援を実践的に考える。 内容:事例を用いた分析。 学習活動:グループワーク。	適宜、指示します。
17	演習1-4:自己決定と自立支援 ねらい:自己決定権の理解を深める。 内容:自己決定の支援方法。 学習活動:ロールプレイ。	適宜、指示します。
18	社会福祉士及び介護福祉士法①(第1節) ねらい:法の目的と専門職の位置づけを理解する。 内容:法の目的、資格の意義。 学習活動:条文の読み取り。	適宜、指示します。
19	社会福祉士及び介護福祉士法②(第1節) ねらい:義務規定を理解する。 内容:秘密保持、信用失墜行為の禁止。 学習活動:法的責任の整理。	適宜、指示します。
20	入所系サービスの役割(第2節) ねらい:施設サービスの特徴を理解する。 内容:特養・老健の機能。 学習活動:施設比較ワーク。	適宜、指示します。
21	在宅系サービスの役割(第2節) ねらい:在宅支援の意義を理解する。 内容:訪問介護・通所介護。 学習活動:在宅支援のメリット・課題整理	適宜、指示します。
22	多職種協働とチームケア(第2節) ねらい:多職種連携の重要性を理解する。 内容:医療・福祉職の役割。 学習活動:チームケア事例分析。	適宜、指示します。
	専門性と説明責任(第3節)	

23	ねらい: 専門職としての態度を理解する。 内容: 説明責任、専門性の根拠。 学習活動: 説明責任の事例検討。	適宜、指示します。
24	記録の基本原則(第3節) ねらい: 記録の重要性を理解する。 内容: 事実・根拠・説明責任。 学習活動: 記録演習。	適宜、指示します。
25	アセスメントと情報共有(第3節) ねらい: アセスメントの視点を理解する。 内容: 情報収集、共有の方法。 学習活動: アセスメントシート作成。	適宜、指示します。
26	介護福祉士を支える団体(第4節) ねらい: 専門職団体の役割を理解する。 内容: 日本介護福祉士会、倫理綱領。 学習活動: 団体の役割整理。	適宜、指示します。
27	演習2-1: 心身の状況に応じた介護 ねらい: 心身機能を踏まえた支援を考える。 内容: 心身機能の理解。 学習活動: 事例検討。	適宜、指示します。
28	演習2-2: 介護福祉士の義務規定 ねらい: 義務規定の適用を理解する。 内容: 義務規定の実践。 学習活動: ケーススタディ。	適宜、指示します。
29	前期まとめ① ねらい: 理念・歴史・役割の統合理解。 内容: 総合演習。 学習活動: グループ討議。	適宜、指示します。
30	前期まとめ②(小テスト・振り返り) ねらい: 前期内容の定着。 内容: 理解度確認。 学習活動: リフレクション。	適宜、指示します。
31	倫理の基本(第1節) ねらい: 倫理の基礎概念を理解する。 内容: 倫理とは何か。 学習活動: 価値観の共有。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
32	利用者の権利と尊厳(第1節) ねらい: 権利擁護の視点を理解する。 内容: プライバシー、尊厳。 学習活動: 権利侵害事例の分析。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
33	秘密保持と情報管理(第1節) ねらい: 情報管理の重要性を理解する。 内容: 個人情報保護。 学習活動: 情報管理ルール整理。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
34	自己決定と安全のバランス(第2節) ねらい: 倫理的ジレンマを理解する。 内容: 自己決定とリスク。 学習活動: ジレンマ事例分析。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
35	家族との意見対立(第2節) ねらい: 家族支援の視点を理解する。 内容: 家族との調整。 学習活動: ケース検討。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
36	終末期ケアの倫理(第2節) ねらい: 終末期の倫理的課題を理解する。	適宜、指示します。

30	内容:意思決定、尊厳死。 学習活動:価値観の共有。	適宜、指示します。
37	生活支援における倫理(第2節) ねらい:日常生活支援の倫理を理解する。 内容:生活支援の倫理的課題。 学習活動:事例分析。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
38	倫理的ジレンマ演習(第2節) ねらい:複合的事例を分析する力を養う。 内容:複数の価値が衝突する事例。 学習活動:グループ討議。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
39	倫理綱領の理解(第3節) ねらい:倫理綱領の内容を理解する。 内容:日本介護福祉士会倫理綱領。 学習活動:条文の読み取り。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
40	専門職としての態度形成(第3節) ねらい:倫理綱領の実践を理解する。 内容:専門職としての態度。 学習活動:ロールプレイ。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
41	倫理綱領の活用(第3節) ねらい:現場での倫理綱領の適用を理解する。 内容:倫理綱領の実践例。 学習活動:ケース分析。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
42	倫理章まとめ(第3節) ねらい:倫理の統合理解。 内容:総まとめ。 学習活動:小テスト。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
43	自立支援の基本(第1節) ねらい:自立支援の理念を理解する。 内容:自立支援の基本概念。 学習活動:事例分析。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
44	生活機能の維持・向上(第1節) ねらい:生活機能の捉え方を理解する。 内容:生活機能の評価。 学習活動:生活機能チェック。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
45	できることを奪わない支援(第1節) ねらい:過介護の問題を理解する。 内容:支援の適切な範囲。 学習活動:支援方法の検討。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
46	ICFの構造(第2節) ねらい:ICFの基本構造を理解する。 内容:心身機能・活動・参加。 学習活動:ICF分類演習。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
47	環境因子・個人因子(第2節) ねらい:生活機能への影響を理解する。 内容:環境因子・個人因子。 学習活動:因子の整理。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
48	ICFを用いた生活機能の捉え方(第2節) ねらい:ICFの実践的活用を理解する。	適宜、指示します。

40	内容:ICFの視点で事例を分析。 学習活動:事例分析。	適宜、指示します。
49	ICF演習(第2節) ねらい:ICFシートを作成できるようにする。 内容:ICFの統合的理解。 学習活動:ICFシート作成。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
50	リハビリテーションの理念(第3節) ねらい:リハビリの基本を理解する。 内容:リハビリの理念。 学習活動:生活リハビリ事例分析。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
51	生活リハビリの考え方(第3節) ねらい:生活行為の改善を理解する。 内容:生活リハビリの実践。 学習活動:生活行為の分析。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
52	多職種によるリハビリ支援(第3節) ねらい:PT・OT・STとの連携を理解する。 内容:多職種連携の実際。 学習活動:連携事例分析。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
53	介護予防の基本(第4節) ねらい:介護予防の基礎を理解する。 内容:フレイル・サルコペニア。 学習活動:予防の視点整理。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
54	介護予防の実践例(第4節) ねらい:地域支援事業の理解。 内容:介護予防プログラム。 学習活動:プログラム検討。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
55	自立支援と介護予防の統合(第4節) ねらい:自立支援と予防の統合的理解。 内容:統合支援の考え方。 学習活動:事例検討。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
56	自立支援章まとめ(第4節) ねらい:自立支援・ICF・介護予防の総理解。 内容:生活機能の整理と自立支援の統合的視点。 学習活動:事例を用いたICF整理と支援案の検討。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
57	総合事例①:理念・倫理・ICFの統合 ねらい:複合事例を多面的に分析する力を養う。 内容:尊厳・倫理・ICFを含む事例の検討。 学習活動:グループで事例分析と意見交換。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
58	総合事例②:支援計画の作成演習 ねらい:ICFを用いた支援計画作成の基礎を身につける。 内容:アセスメントから支援計画への流れを学ぶ。 学習活動:支援計画書の作成と発表。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
59	年間まとめ①:全体の振り返り ねらい:年間の学習内容を整理し理解を深める。 内容:第1~4章の重要ポイントの再確認。 学習活動:キーワード整理と振り返りシート作成。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
60	年間まとめ②:理解度確認(筆記試験・振り返り) ねらい:年間の学習成果を確認する。	適宜、指示します。

00	<p>内容：筆記試験と年間の総括。          学習活動：試験実施と振り返りワーク。</p>	<p>適宜、指示します。</p>
<p>成績評価の方法</p> <p>授業参加・態度 :30%          出席状況、授業への参加姿勢、グループワークでの協力姿勢などを評価する。</p> <p>・小テスト・課題 :40%          各章末の確認テスト、ワークシート、事例検討レポートなどを評価する。</p> <p>・期末評価(筆記試験またはレポート) 30%          年間の学習内容(理念・歴史・役割・倫理ICF・自立支援)の理解度を総合的に評価する。</p>		
<p>使用テキスト・参考書等</p> <p>中央法規出版『最新介護福祉士養成講座 介護の基本 I 第3版』          日本介護福祉士会「倫理綱領」          ・介護福祉士国家試験対策テキスト</p>		
<p>授業に関する特記事項(携帯電話の取り扱いや授業内のルール等)</p> <p>グループワークでは互いを尊重し、積極的に参加すること。</p> <p>・授業中の私語・飲食は禁止(水分補給は可)。          ・教室内の撮影・録音は禁止(許可がある場合を除く)。</p>		